

事務事業評価シート

No.	事務事業名	所管部課
8	献血推進協議会補助金	健康福祉部健康課

事務事業の概要	事務事業の目的		根拠法令等
	西東京市献血推進協議会を設置し、当協議会を通して、献血思想の普及及び献血事業の実施を目的とする。		<input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input checked="" type="checkbox"/> 要綱・要領
	事業の概要	職員の業務内容	
	【補助対象者】 西東京市献血推進協議会 【補助対象経費】 協議会定例会のための会議費用及び献血推進事業費（献血受付者への参加景品代など） 【補助額】 808,000円（会議費：56,000円 事業費：752,000円） ※平成29年度定例会9回実施 【献血事業】 平成29年度実績：37回 （うち田無庁舎2回 保谷庁舎2回）	①総会の実施（5月上旬） ・前年度の事業報告・収支決算報告 ・今年度の事業計画 ②補助金交付申請（6月上旬） ・申請内容の審査 ④交付決定（6月下旬） ・交付決定通知送付 ⑤補助金の交付（7月上旬） ⑥実績報告の受領（4月30日までに） ・報告内容の審査 ⑦補助金の確定 ・確定通知及び剰余額の返還	
事業開始時期	合併以前	実施形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ()

事業費データ	項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)			808	808	808
財源内訳	国庫支出金・都支出金					
	地方債	千円				
	その他 ()					
	一般財源		808	808	808	808
所要人員(B)	人	0.04	0.04	0.04	0.04	
人件費(C)=平均給与×(B)	千円	306	298	306	317	
臨時職員賃金等(C')	千円	0	0	0	0	
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	千円	1,114	1,106	1,114	1,125	
単位当たりコスト(E)=(D)/ (献血者数)	千円	0.6	0.6	0.6	-	

評価指標	指標名	単位	27年度	28年度	29年度	30年度
	①献血者数	実績値	人	1,809	1,817	1,792
②献血実施回数	実績値	回	36	35	37	
《指標とした数値変化に対する要因分析など》 ①全国的に献血者数が減少しているが、献血推進協議会が目標とする献血者数(1,700人)を超え、ほぼ横ばいで推移している。 ②協議会として事業を運営することで、会場確保や献血実施等、構成団体の協力体制が構築されており、実施回数の維持ができています。						

事業環境等	市民・関連団体等の意見（アンケート結果など）	特になし	
	他団体のサービス水準との比較（平均値との比較、本市の順位など）	<input checked="" type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下	多摩26市において、献血推進協議会が設置されている市は西東京市を含め11市であり、上位～中位に位置する。
	代替・類似サービスの有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

【一次評価】

検証項目	判定	判定理由
事業の優先度(緊急性)	普通	事業の必要性を踏まえ、継続的に取り組む必要がある。
事業の必要性	高い	血液の供給体制維持のためにも、協議会の活動支援は必要である。
実施主体の妥当性	適正	協議会が主体となることで、より効果的な献血事業が可能となっている。
事業(補助)の対象	適正	献血推進事業の主体となる協議会への支援であり、適切と考える。
事業(補助)の内容	適正	補助金交付要綱に基づき適正に使用されている。
受益者負担	適正	献血活動はボランティアで実施しており、受益者負担を求めるものではない。
事業コスト	普通	年間実施回数や活動内容等を踏まえ、標準的なコストと考える。
業務負担	軽い	運営全般を協議会が実施しているため、事務負担は少ない。
一次評価	今後の実施に向けた方向性	
<input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止	血液は、人工的につくり出すことができず、また長期間にわたって保存もできない。そのため、必要な血液を常に確保するには、継続的な献血事業の実施が不可欠である。なお、補助金の支出については、要綱に従い適切な執行としているが、その用途については、実績に応じ精査していく。	

【二次評価】

検証項目	判定	判定理由
事業の優先度(緊急性)	普通	事業の必要性を踏まえ、継続的に取り組む必要がある。
事業の必要性	高い	血液の供給体制維持のためにも、協議会の活動支援は必要である。
実施主体の妥当性	適正	協議会が主体となることで、より効果的な献血事業が可能となっている。
事業(補助)の対象	適正	献血推進事業の主体となる協議会への支援であり、適切と考える。
事業(補助)の内容	課題有	補助金の大半が、献血協力者への啓発品代に充てられている。
受益者負担	適正	献血活動はボランティアで実施しており、受益者負担を求めるものではない。
事業コスト	普通	年間実施回数や活動内容等を踏まえ、標準的なコストと考える。
業務負担	軽い	運営全般を協議会が実施しているため、事務負担は少ない。
二次評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題、今後改善すべき点等	
<input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止	全国的に献血協力者が減少する中で、毎年1,800人前後の協力を得られていることは、献血推進協議会の活動によるところが大きいものとする。しかしながら、補助金の用途として献血協力者への景品がその大半を占めていることから、献血協力者数の増加に向けた意識啓発などの取組について検討し、より効果的に補助金を活用していく必要があると考える。	

【外部評価】

外部評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
<input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止	

【行革本部評価】

行革本部評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
<input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止	

【改善の方向性・スケジュールと改善実施にあたっての課題】

改善の方向性・スケジュール	
---------------	--